# 国際協力Ⅲ

国際協力の実践

日時：平成２３年１０月８日（土）　１０：００～１２：００

講師：渡利　智子（元青年海外協力隊）

## 概況

◎ブルキナファソにおける青年海外協力隊の活動報告

2007 年 6 月～2009 年 6 月に、青年海外協力隊としてブルキナファソ北部、サヘル州の都市ドリに派遣された。

1. ブルキナファソ

西アフリカ、サハラ砂漠の南側に位置する内陸国。1960 年独立。国土は日本の約 7 割。人口 1580 万人、人口増加率が 3%以上と高い。公用語はフランス語。雨季と乾季がある。森林は疎林が南部に見られ、土地の多くはサバンナやステップ。主な産業は農業、牧畜。

→森林面積は徐々に減少しているとみられる。原因は、降水量の減少などの気候の変化、人口増加による農耕地の拡大などが考えられる。住民は木材や葉、木の実を生活資源として利用しているため、生活上の実感として森林の重要性と環境の変化を感じている。

2. 活動内容

女性グループ「TOWAL DJOMGA（トーワル　ジョムガ）」の活動（乾季の野菜栽培、接木苗の生産、デンマークから資金援助を受けて活動）の運営補助（書類作成、業者選定、講師の交渉など）や、野菜生産のアドバイスなどを行った。

現地の学校で環境教育（小学生は自然のスケッチ、高校生は環境グループとの意見交換会など）を行った。また、小学校では、植樹用の苗木の生産・販売を行った。他

にも、学校周辺に日陰や生垣になる樹種の植樹を行った。

言葉の壁によりコミュニケーションが上手く取れないなどの問題もあり、活動のほうも、苗木生産が全滅するなど、全ての取り組みが成功したとはいえなかったが、現地の人々の活き活きと活動する姿が活力となった。

植林がなかなか進まない背景には、土地の所有権や、厳しい気候、他の政策との整合性など、複雑な要因があり、地域の理解が得られても難しい部分がある。また、支援活動が多く行われていても、最も支援が必要な地域、住民層に行き届いていないこともある。地域や住民をひとくくりにせずに、誰が支援を必要としているかを見極める必要がある。